



〒614-8011 京都府八幡市八幡垣内山 47  
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

## この号の内容

### 【観光関連】

- 1 はじめに
- 2 行政の進め方
- 3 行政の進め方-質問と答弁-
- 4 住みよいまちづくり-質問と答弁 -
- 5 健康づくり・防災-質問と答弁 -
- 6 観光施策
- 7 観光施策 -質問と答弁-①-
- 8 観光施策 -質問と答弁-②-
- 9 新庁舎の機能-質問と答弁--
- 10 要望
- 11 防災について-質問と答弁-
- 12 観光施策について-再質問と答弁・要望-
- 13 文化庁との連携について-要望-

## はじめに

鷹野雅生議員 八幡みらいクラブの鷹野雅生です。

八幡みらいクラブの鷹野雅生です。

今日は、久しぶりに質問席に立たせていただきました。

監査委員拝命中は一般質問を控えておりましたので、2年ぶりの一般質問になります。

いささか緊張しておりますが、新鮮な気分でもあります。

よろしく願いいたします。

---

### "GASHINとは"

GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと思います。  
願っております。

# 行政の進め方

ここ何日かかけて、かつて質問させていただいた原稿やメモを取り出して、私なりにチェックもしていたのですが、思えば世の中が大きく変わりました。  
新型コロナウイルス感染症の拡大によって、世界中が大きな影響を同時に受けているというかつて経験したことのない事態の中に置かれています。

国が違えば、アメリカやインド、ブラジルのように桁違いの感染者を出しているかと思えば、ワクチン接種を急速に進めて、今ではマスクはなくてもよいといったニュースが聞こえたり、イタリアやギリシャは外国からの観光客を受け入れるというニュースもありました。

各国の感染者数から見ると日本の場合は少ないかもしれませんが、緊急事態宣言は長く続いています。マスクは欠かせない、3密を避ける、ソーシャルディスタンスが1年半以上続いていますから、日本人の物の見方、考え方、生活様式が大きく変わったところもあると思います。  
つまり世の中が大きく変わったのですから、行政の進め方や担当部署の課題や疑問点をお伺いするにしても、今までとは違うこともあるということ認識の上でお尋ねすべきと思った次第です。

観光を考えるにしても、全員がマスクをしているんです。表情が変わるだけでなく、物の見方、考え方が変わった人に、これまでと同じトーンで説明しても通じないかもしれません。  
しかも、この事態がいつ終息するか分かっていません。数十年に一度あるいは100年に一度あるかないかの大きな変革の中で、私たちは暮らしていることとなります。100年に一度となれば、歴史の中で見ても大きな出来事が見られます。

源平の戦い、応仁の乱、疫病もありました。近世では、明治維新が目にとまります。  
それからおよそ、100年が昭和20年の敗戦です。そして、およそ100年が今の状況です。  
先の状況が分かりません。変異ウイルスがまるで意思でもあるかのように、次々と現れるかもしれません。日本中が大きな影響を受け、業種によっては大きな損失が今も続いています。

過去の100年に一度あるかないかの混乱を見て感じることは、明治維新やさきの敗戦にしても、大きな混乱はあったけれども、日本人は混乱の中から立ち上がり、望ましい方向を見つけ出して、時代を発展させてきたことです。ですから、今回のコロナは、大変厄介者には違いないですが、厄介なコロナからも学びを見つけ、アフターコロナのよき時代を築いていく責任があることだと感じているところです。

新型コロナウイルス、変異型も含めて、日本中が大きな影響を受けています。  
日本人の物の見方、考え方、生活様式、仕事の取組、生き方そのものに影響を受けています。  
日本中が大きな影響を受けたということは、八幡市もその影響を受けて変容していることも多いと見なくてはなりません。

このことを認識した上でお伺いします。

# 行政のすすめ方 - 質問と答弁 -

まずは、業務の進め方についてお尋ねします。

## 質問

### 感染症防止対策と絡めての会議の現状

会議が多い少ない、時間を短くしている、参加者を制限している、該当することがありましたら教えてください。

併せて、オンラインでの会議についても、現状の説明をお願いします。

## 答弁

業務に関連しての会議でございますが、情報交換を目的とした京都府内の市町村が集合して行う会議等については、書面での照会や聞き取りへの実施方法に変更、またオンライン会議を行う際に、可能な限り検討箇所の洗い出しに努め、必要事項のみを議題とすることで従来より時間や回数を減らして開催しているところでございます。

オンライン会議の現状についてはコロナ禍で外部での会議が縮小され、オンライン会議が増加しております。

これに伴い、ウェブ会議用パソコンを整備し各部署に貸し出す形で、外部との会議等で利用しております。これまで開催されたオンライン会議の例といたしましては、京都府主催の情報所管課長会議やスマートウェルネスシティ首長研究会等があるようになります。

## 質問

### ICT情報通信技術の活用

大阪の豊中市では、ICT情報通信技術の活用を図ることにより、申請のための来庁者を不要にすることや庁内の文書管理についても変化を避けて通れないだろうと考えていますが、本市の現状と将来目標についても、抱負を込めてお答えください。

併せて、ICT情報通信技術の活用を図るときに、高齢者への配慮をどの程度行うのか。今回のワクチン接種申込みをめぐる、高齢者とのトラブルの報告もありました。デジタルディバイド、いわゆる情報格差についての基本的なお考えをお聞かせください。それによって、行政を進める上で重点施策の決め方にも影響が出てくるのではないかと推測いたしております。

## 答弁

申請のための来庁不要とする取組としましては、京都府共同化システムである電子申請システムが利用可能となっており、各申請担当課にニーズ調査を行い、導入意思のある担当課について導入に向けて準備を進めているところです。今後も申請担当課に向けて電子申請システム導入の働きかけを行い、導入拡充に向けて取り組んでいきたいと考えております。また、庁内の文書管理について、現行の分掌事務は紙文書による決裁を行っていますが、年内に電子決裁によるシステムを稼働する予定でございます。

デジタルディバイドについての基本的な考え方についてお答え申し上げます。ICTに不得手な高齢者等については、携帯ショップなどで行われるオンラインサービスの利用方法等の説明会等をご利用いただくとともに、ICTのみでの対応だけでは困難であると考えられることから、市役所の窓口での受付と対応も必要であると考えております。その上で、デジタルディバイドの対応については、必要に応じて調査研究してまいりたいと考えております。

# 住みよいまちづくり -質問と答弁-

次に、住みよいまちづくりについてお伺いします。

コロナの影響で日本人の考え方が変わったと言われますが、自分の住むところ、地域に対する考え方にも変化が見られます。これまでは、東京、首都圏、大阪といった大都会志向の強かった若者たちが東京でなくてもいい、人口が多く、感染の可能性の高い大都会よりも、仕事もオンラインで出来るのだから自然豊かな地方都市で暮らしたい。という若者が増えていることです。

## 質問

### 若者の移住定着促進

このような若者をどのように本市に取り込んでいくのか。

本市の有利な点を生かして、取組を進めるべきであると考えますが、どのようにお考えでしょうか。

## 答弁

新型コロナウイルスの感染拡大などにより、一部の企業では働き方改革も含めテレワークを導入しているところもあります。しかし、テレワークだけで完結する業務はそれほど多くはないと思っております。また、議員が述べられましたとおり、自然豊かなや農村居住を志向する若者も表れつつありますが、依然として職住近接を志向する若者が多くいるのではないかと思っております。

いずれにいたしましても、本市といたしましては、待機児童ゼロや公共施設の充実、京都・大阪の大都市の中間地点で交通網が結節しているなど地の利を生かしながら、第2期八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略に記載しておりますように、市民名神高速道路の全通インパクトを生かした都市的な土地利用を推進するなど、新たに市内で仕事の場や暮らしを楽しめる場を有する、より多機能な力を有したまちへの転換、まちの質的変換を図ることで、若者の移住・定住促進を図ってまいりたいと考えております。

## 質問

### 若新たな地域の担い手外国人住民と共生するまちづくり

最近の現象として、男山団地を拠点として、外国人居留者が増えてきていると聞いています。現状並びに外国人を対象としたコミュニケーションのとりやすいまち、つまり住みやすいまちづくり対策として実施しておられる施策や行政サービスなどを教えてください。

## 答弁

令和3年5月末時点での本市の外国人居住者は1,857人で、技能実習制度開始前の平成27年の887人と比較いたしますと2倍以上に増加し、総人口の約2.7%を占めております。令和3年度では、昨年度3か国語で作成いたしましたくらしの相談事例集の英語版の作成に取り組むとともに、外国人居住者が日本語の理解を深める機会が確保できるよう日本語指導ボランティア養成講座を開催することとしております。

また、昨年度に引き続き、京都府により多言語生活相談も実施していただくこととしております。

# 健康づくり・防災 - 質問と答弁 -

コロナの影響で各グループ、団体も活動を休止していると思われます。  
人が集まることを避けるように言われたら、集まっての活動はできません。  
そこでお尋ねします

## 質問

### 文健康づくりの団体への支援・育成について

市内で健康づくりを目指している団体、グループの現状をどのように把握しておられるのか。  
市として何らかの支援や指導、また育成をされているなどの状況を教えてください。

## 答弁

市内で活動されている全ての団体やグループを把握しておりませんが、本市が運営、立ち上げに関わっている場合は電話や郵送などの方法で把握を行っており、大半の団体やグループが、緊急事態宣言の発令による会場の使用制限等の期間を除き、従来の活動を続けておられます。感染拡大による不安から参加を見合わせる方もおられますが、運動不足等健康状態の悪化を防ぐために、新たに活動に参加したいというお声も多く頂いております。  
市が運営や立ち上げに関わっている団体やグループには、安全に活動していただくための感染症対策のポイントをまとめた資料を配付するなど支援を行っているところです。

## 質問

### 防災について

コロナの影響が防災の取組にどのように出ているか、大まかにご報告いただきたいと思  
います。外出を控え、家に閉じ籠もった生活を余儀なくされてきました。  
防災訓練なども実施できなかつたのではと推測しております。この事態の中にあつて、防  
災上の新たな取組がありましたら教えてください。  
消防においては、緊急体制はコロナの影響が大きいのではないかと考えています。  
緊急、出動時における現在の取組についてお聞かせください。

## 答弁

防災の取組に対する新型コロナウイルスの影響については、避難所における感染症拡大防  
止を図るための対策が必要となっており、とりわけ密を避けるため避難者間の間隔を必要と  
することから、従来と比較し、避難所の収容可能人数に大きく影響しております。  
また、感染防護衣、段ボール間仕切り、段ボールベッド、屋内用テント、空気清浄機能つき  
オゾン発生装置など感染防止対策用資機材を新たに備蓄しました。  
次に、防災上の新たな取組については、昨年度からの取組ではございますが、災害発生が予  
測される場合の逃げ遅れを防止するため、早期の避難をしていただけるよう各自治会などに  
避難行動タイムライン等の策定をお願いするとともに、市職員による策定の支援をさせてい  
ただいたところでございます。

救急出動時における現在の取組についてですが、救急隊員は全ての救急出動に際し、国から  
示されております感染防止着、ゴーグル、サージカルマスク、ゴム手袋を着用した標準予防策  
を徹底しております。帰署後には、使用資機材の廃棄やオゾンガスにて除染消毒をするなど2  
次感染防止に留意しております。新型コロナウイルス感染症につきましては、自宅療養中の陽  
性者を医療機関へ搬送しております。また、感染の疑いのある傷病者を搬送した場合は、後日  
山城北保健所からPCR検査等の結果報告を受けております。なお、陽性者などを搬送した隊  
員につきましては、通常勤務を継続しておりますが、山城北保健所の指導の下、経過観察を  
行い、体調管理を徹底するように指示しているところでございます

光を観る「観光」

国宝 石清水八幡宮

魅力いっぱいの八幡市

# 観光施策

観光をめぐる環境も大きく変わりました。長引く緊急事態宣言で、京都の知られた観光地帯はひっそりとしています。

インバウンドを見越して建てられたホテルをこれからどうしていくのか、案じられています。

だからといって、観光が駄目になったのではなく、アフターコロナを見据えた観光対策をしっかりと立てて推進するのが、今この時代、この時期だと見えています。

これまでの京都観光と言えば京都の有名社寺や観光地に集中していましたが、集中から分散という流れにより京都の郊外といえますか、周辺観光地との垣根がなくなりはないにしても、垣根が低く小さくなったと感じています。

京都観光とは、京都だけでなく、宇治市から我がまち八幡市へ、さらに亀岡市から丹波地域、さらに北部の日本海側へと広がっていくことが伺えます。

楽しいところ、楽しいこと、魅力的な場所がたくさんあればよいのです。

ソーシャルディスタンスをやかましく言うようになって以来、前後左右は人でいっぱいの観光地より、ゆったりと歩ける、ゆっくり見られるほうがよいとする人が増えてきているように思います。

いつも言っていることですが、観光とは光を観ると書きますように、光り輝くところを見に行くのが観光です。石清水八幡宮は国宝です。歴史的に見ても、現在でも光り輝く国宝です。

我が八幡市に光り輝く場所がどれくらいあるのか。仮に少ないと思えば、光り輝くところをつくり出せばよいのです。既にある観光地の光り具合が少ないと思えば、光を増やす努力をすることです。

せっかくの宝物なのに、光方の少ないと思うものもあります。

例えばエジソンと八幡市の竹です。エジソンが自分の電球のフィラメントに八幡市の竹を使用したことはよく知られていますが、それ以上のことになるとどうでしょうか。エジソンは、どのようにして八幡市の竹を発見したのか。どんな研究を続けたのか。膨大な発電用の実験を繰り返したとありますから、ドラマチックなエピソードもあると思います。エジソンの電球に八幡市の竹がどうよかったのか。

感動のストーリーをつくり出せると思います。

小・中学校の副読本に採用されていますし、ホームページの八幡ストーリーの中でも紹介されています。

何かもう一工夫あれば、エジソンと八幡市の竹物語が一つの新しい観光資源になると思います。

この一工夫が光をつくり出し、さらに光り輝かせることになると考えています。

八幡市に存在するところで、さらに光り輝かすところがたくさんあります。三川合流地点です。スケールの大きい観光対策を考えたいところです。背割堤も、今のままでも八幡市を代表する観光地帯ですが、別の光を当てたいのです。今は、春のシーズン、長く見て1か月の背割堤ですが、背割堤は夏も秋も冬でも、あなたが来られた日、あなたが歩かれた日には大きな感動があなたを包み込むでしょうと呼びかけてみるのはどうでしょうか。パンフレットに満開の桜もいいのですが、夏や秋の桜でいきま。これも新しい観光対策の展開となります。流れ橋にしても、水かさが一定量を超えたら無理にせき止めたりしない。橋ごと流してしまう。自然に任す視点とともに生きていくことが学ばせてくれます。飛行神社もそうです。日本の誰よりも早くに空を飛ぶことに人生をかけた人が八幡市にいたのです。松花堂弁当もそうです。ちょっと視点を変え、工夫することによって、便利になるだけでなく合理的なデザインとなるきれいなお弁当ができるのです。八幡市が発祥の地です。空中茶室の発想の面白さはどうでしょうか。京都で初めての奇想天外とも思えることが、八幡市のこのまちで次々に生まれてきました。

このようにちょっと視点を変えて見るだけで、八幡市が新しいすばらしい町に見えてくると思います。これまでに、私は観光対策について毎回のように質問し、提案もさせていただきました。市としても、先ほどの八幡ストーリーや空中茶室のVR等、様々な取組をしていただけてきました。

そこでお伺いします。

# 観光施策 -質問と答弁①-

## 質問

### VR 視聴状況と効果について

八幡ストーリーや空中茶室のVRの視聴状況はどのようになっているのでしょうか。また、その効果を市としてどのように見ておられますか、教えてください。

## 答弁

八幡ストーリーの視聴状況につきましては、本年5月末までの過去1年間のアクセス合計は1万 5,415 件となっております。また、空中茶室VRの視聴状況につきましては、3月12日の公開日以降5月末現在で合計約 1,480 回再生されております。効果についてでございますが、八幡ストーリーとVRによりコロナ禍でも市の観光情報発信できたと考えております。中でも、男山 48 坊跡や神仏習合について丁寧に紹介できたことで、VRの新聞掲載やテレビ番組、男山 48 坊跡や閑雲軒跡を実際に訪れる特集が組まれるなどメディアで取上げられ、これまで以上に情報発信ができたと考えております。

## 質問

### 駅前整備事業の進捗状況について

玄関はきれいでないといけません。家もまちも同じです。八幡市の玄関口に相当する京阪石清水八幡宮駅前の整備振興を訴えてまいりました。ケーブルカーが昇り降りしていることを知らない人がいるかもしれません。駅前周辺一帯を伊勢神宮の門前町のようにしてもらいたいと願っております。駅前整備事業の進捗状況について教えてください。

## 答弁

石清水八幡宮駅前周辺整備につきましては、現時点で様々な課題があり、市が単独で主体となった整備や即座の着手は難しい状況であることから、民間活力を取り込みながら都市機能の誘致、充実を図ってまいりたいと考え、民間事業者の進出動向を注視しているところですが、現時点において進出意向を表明されている民間事業者がいないことから、目に見える進捗がない状況でございます。民間事業者の進出を促すには、駅周辺のにぎわい創出による周辺整備に向けた機運の高まりや駅利用者を増やす取組が重要であると捉えており、これまでも観光や産業の振興、駅周辺の整備などに注力してきたところでございます。にぎわいの創出に向けてはこれまで観光施策に加え、令和2年度にさざなみ公園に隣接する京都府所有の土地をさざなみ公園と一体利用できる修景整備や、放生川横のさざなみ緑道の清掃美化を行ってまいりました。また、令和3年度からは、市の北の玄関口である市道科手土肥線の常夜灯設置を含む広場整備による修景化を図ることとしております。駅利用者の増化に向けては、産業振興ゾーンにおける企業立地による就業者が増えることを見込んでおり、現在、農政担当部署と連携協力し、その実現に向け積極的に関係機関と調整を進めているところでございます。

# 観光施策 -質問と答弁②-

私が観光を重視しますのは、観光という一つの政策として見ているのではありません。観光問題を重視するということは、全ての分野に関連する課題だからです。まちづくりから教育、農業、全てをよくしていかないことには、観光発展、観光開発は発展していきません。そう信じてまいりました。そこでお伺いします。

## 質問

### 観光政策の推進・文化庁との連携について

コロナの影響を受けて、まちも人も考え方も変わったということを念頭に置いて、私は観光政策も変わっていかねばならないと考えておりますが、市としては、今の観光政策をどのように考えておられるのか、どのように推進していかれるのかお聞かせください。

また、観光に合わせて京都市に移転する文化庁との連携についても、基本方針等が決まっているようでしたらお聞かせ願います。

## 答弁

今後の観光政策について、コロナの影響を受けての観光行動の変容は、マイクロツーリズムなど様々に指摘されておりますが、デジタル化の進展と相まって進む旅行形態の団体から個人への変化は今後も一層顕著になると見ており、本市にとって重要な点であると認識しております。

よって、今後は個人客にアピールするような取組や1度に多くの人を1か所に集めるイベントより、様々な時期に小さくとも本市ならではの催しや見所を誘発し、併せて近隣地域へのPRを強化するなどのウイズ航路の施策を進めながら、並行してアフターコロナのインバウンドを含めた回復期に備え、地道な環境整備を進めていくべきと考えております。

そうした考えの下、今年度といたしましては、背割り堤桜のVRを製作し、昨年度製作した空中茶室VRや観光体験PR動画等と併せ、デジタルによる発信を効果的に行っていきたいと考えております。

また、環境整備としてWi-Fiの拡充や約25地点に多言語の観光案内看板の整備を行うほか、八幡ストーリーの改修を進める等でございます。

さらには、市内の多様な関係者、事業者の連携を今まで以上に促すことで観光資源を磨き上げ、通年でのおもてなしとなるよう取組を推進してまいりたいと考えております。

文化庁との連携について、本市では平成30年3月に第5次八幡市総合計画を策定し、その中で、シビックプライドの醸成の観点から文化財の保存と活用を重要な政策課題として位置づけております。

八幡市の文化遺産である松花堂及び書院庭園は、平成26年に国の名勝に指定され、平成31年度から国庫補助事業により災害復旧工事を進めております。

文化庁の移転は、京都の文化行政を強化する契機であると考えていることから、今後より一層京都府及び文化庁との連携を図り、文化遺産の保存活用をはじめとした文化行政の推進に努めてまいりたいと考えております。

# 新庁舎の機能 -質問と答弁-

新庁舎が、令和5年1月の開庁を目指して建設が進められています。最新の機能を備えた庁舎になると期待していますが、コロナ対策並びにアフターコロナを考えた対策も取っておられることと思います。

## 質問

### アフターコロナについて

現時点でお答えできる範囲内でお聞かせいただければと思います。

## 答弁

新庁舎につきましては、新型コロナウイルス感染症対策として施設整備をしている箇所はございません。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の予防策の一つと換気につきましては、建築物衛生管理基準により温度、湿度、二酸化炭素濃度等の管理をする努力義務がございますので、この基準を満たした新庁舎の換気設計は、厚生労働省の新型コロナウイルス感染症による換気基準がこれに準じていることから対応していることとなります。

また、新庁舎における接客時のハード面対策につきましても、これまで行ってまいりました来庁者用の消毒液やアクリルボードの設置、小まめなカウンター周辺の消毒等の対策を講じた経験を踏まえ、国や京都府の指導の下、そのときの状況に合わせて適切に対応してまいります。

今日質問させていただいたことは、日本中がコロナの影響を受けて苦労している中であっても、我が八幡市は、コロナの教訓を生かして、住みやすい元気のわいてくるようなまちづくりを率先して目指していることを実例と共に明らかにしていただきたいと思います。願っているからです。

以上で1回目の質問とさせていただきます。

現在も厄介なコロナウイルスが立ちはだかっております。  
ワクチン接種が始まっていますが、緊急事態宣言がまだ続いております。安心はできません。  
早く終息することを願っております。

それぞれの立場でできることは、一生懸命取組を進めていただいております。  
国がやるべきこと、地方自治体としてやるべきこと、それぞれありますが、今回学ぶとすれば、  
自分で自分を守ること、できることを真剣に受け止めて、手洗い、うがい、マスクの着用、消毒  
液の使用などできることをとことんやるのが大事なことだと思っております。

私も家に帰ったら、まず石けんで丁寧に手を洗います。それが身についたと思っております。  
それぞれの立場でできることを一生懸命取り組んで、コロナウイルスにかかる人が出ないように、  
またかからないように努力を重ねていただきたいと願っております。  
私も厄介なコロナウイルスから学んだことをアフターコロナに生かしていきたいと考えておりま  
す。

まず、デジタルディバイド、いわゆる情報格差について、オンライン会議申請のための来庁を  
不要とすることや庁内の文書管理については分かりました。  
業務の進め方として、ICT、いわゆる情報通信技術を活用することで、効率化が図られ、効果的  
な業務が遂行でき、ICT化を図っていかなければいけないということを思いました。  
そこで要望させていただきます。

## 要望

何もかもがICT化されれば、対応できない人もおられます。  
ウェブやオンラインは、高齢者がなかなかついていけない。このことは、ワクチン接種をめ  
ぐってもあちこちで見られたということです。  
中には詳しい高齢者もおられるんですが、高齢者やICTが活用できない人のために、電  
話や対面での処理もよろしく願いいたします。

次に、外国人住民の現状並びに外国人を対象としたコミュニケーションの取組については分か  
りました。若者の移住・定住促進については、若者を八幡市に取り込む取組について、より多機  
能な力を有したまちへの転換を図るということで、多機能なまちづくりですから、答弁としてはあ  
りがたい最高の答えを頂いたように思いますが、今の若者は若者特有の思考を持っていると  
思います。そこで要望させていただきます。

## 要望

多機能が加わっても、その中で1点、若者の好みをどう引き出すか、その辺りを考えて頂きま  
すように、よろしく願いいたします。

続きまして健康づくりについて、人から言われるよりも基本的には自分でするものだと思ってお  
ります。健康については、まずは自ら意識して生活改善や活動をしていくことが重要です。  
そのことを実践されている団体やグループは、自主的な健康づくりの大きな輪になっていると考  
えます。

## 要望

健康づくりの活動が活性化するように、今後も積極的な支援をよろしく願いいたします

# 防災について -再質問と答弁-

避難におけるコロナ対策の取組について、昨年度は、感染防護服、段ボール間仕切り、段ボールベッド、室内用テント、空気清浄機つきオゾン発生装置など感染防止対策用資機材を新たに充実していただき、ありがとうございました。  
機材などの整備は十分行われていることがよく分かりました。

防災上の新たな取組については、早期の避難をしていただけるように、職員による策定の支援の下で各自治会などに避難行動タイムライン等の策定をお願いしているということで、自治会の持つ特性なり、特徴なり事情を把握した上での行動計画を特にお願いしたいと思っております。

## 質問

実際、避難所が開設されたときの運営面での対応や対策が、高齢者にも周知できているようになっているのか。

避難行動タイムラインは実際にどれぐらいの自治会で作成されているのか。  
また、今年度はどのようにされているのか。

## 答弁

避難所における感染症対策につきましては、従来と比較し、避難所の収集可能人数に大きく影響しておりますことから、まずは親戚や友人宅など指定の避難所以外への避難についての検討を、高齢者を含む全ての方に呼びかけをしているところでございます。  
また、避難所における感染症拡大防止のため、避難所の受付における検温や健康チェックシートの記入、体調不良者の専用スペースの確保が必要となっております。  
したがって、具体的な場所としましては、避難所となる学校の教室などがそれに当たります。また、避難所の開設及び感染症対策を円滑に実施するため、各部ごとに担当する避難所を定めるとともに、各施設にリーダーを配置することにしております。

次に、避難行動タイムラインにつきましては、これまでに八幡市第一区及び八幡市第三区自治会の2自治会において策定いただいております。  
今年度につきましては、第二区自治連合会、八幡市第四区、八幡市第五区、双栗自治会、石清水ビューハイツ自治会で策定いただく予定となっております。  
防災についての質問のうち、消防本部に関することです。

コロナ禍での現在の取組については分かりました。もう一点質問よろしくお願ひいたします。

## 質問

他市では、救急搬送病院がなかなか決まらない事例があると聞いていますが、本市においてはそのような事例はあるのかどうかお聞かせください。

## 答弁

コロナ禍において、救急搬送に係る搬送困難事例につきましては、現在のところ本市ではございません。

# 観光施策について -再質問と答弁・要望-

観光について、アフターコロナの観光は、にぎわいだけでなく、ゆっくり静かに味わっていたき、来られた方が今日はいいい日に来たと思っていただけるような特別感のあるものが重要でないかと考えております。そのことでリピーターを増やし、SNSでの拡散などにより、ほかの人に期待と思わせる訴求力が、これからのスターコロナの観光には必要だと思います。観光に来られる方が何を求めているか。そこを明確にしなが、八幡市にある豊富な観光資源をどう活用し、展開していくかが重要です。

八幡ストーリーは、過去1年間の苦節合アクセス計は1万5,405件、空中茶室VRは3月12日公開日以降5月末現在で、1,480回再生されておりますが、ネットの世界では、拡散が広く行われ、行われていないと思っております。

VRもいいものをつくりながら、何で広がらないのか。何が不足しているのか。これも、観光客や見たいと求めている人たちとの間に、何らかの段差があるのかもしれない。

## 質問

VRをもっと見ていただくために、口コミで話題になるように、今後どのようなことを考えておられるのか。

観光客のニーズを把握し、八幡市の豊富な観光資源をどう活用し、展開していくか考えをお聞かせください。

## 答弁

空中茶室VRをもっとご覧いただけるように、コロナ終息後には松花堂庭園にゴーグルを設置して、来館者にご覧いただけるようにしたいと考えております。

ウェブ動画としての視聴件数を増やすには、イベントに際してPRするなど効果的な広報を行うとともに、知名度のある背割堤桜のVRが製作できましたら、空中茶室VRにも視聴者を誘導するような仕掛けを工夫をしたいと考えております。

観光客のニーズを把握することは非常に重要であると考えており、平成29年度の歴史文化物語コンテンツ作成に係る事業や、同年度から3か年実施した龍谷大学との連携事業において、専門人材や大学生によるモニターツアーを開催しているほか、お茶の京都DMOが行うアンケート調査等の結果を毎回注視しており、施策につなげております。今後はより一般の観光客に近い方のご意見を伺えるようなモニターツアー等を実施してニーズの把握に努め、施策に生かしてまいりたいと考えております。

## 要望

石清水八幡宮駅前整備事業の進捗状況について。

本市の観光にとって、石清水八幡宮駅前周辺一帯を伊勢神宮の門前町のようにしてもらいたいと願っております。

石清水八幡宮駅は、観光にとっても乗降、乗り降りにとっても拠点駅でございます。

八幡市の表玄関である位置づけを京阪電鉄にも持っていただき、また働きかけていただき、八幡市と共同でいかに成果は少ないだろうと思っております。

成果を上げるために、八幡市と京阪電鉄が同じ考えの下に行動していただくことが大事なことだと考えています。せっかく駅前も変わったので、石清水八幡宮駅になったことにより、八幡市の魅力を訪ねてくれる人が一層増えてくると願って行動を展開していただきたいと願っております。

---

積極的な情報発信  
アフターコロナの対応  
期待の新庁舎

---

# 文化庁との連携について

## -要望-

文化庁との連携については、八幡市の文化遺産である松花堂及び書院庭園の修復をご指導いただいているということで、なお一層の文化庁との連携を図っていただきたいと思います。

### 要望

文化庁サイトで松花堂のことを調査し、広報活動の中に取り入れていただいていると承知していますが、八幡市サイドからも積極的に松花堂の情報を文化庁に発信していただきたいと思います。

### 要望

松花堂は大きな観光拠点ですから、さらに言えば、松花堂以外にも素晴らしいことがたくさんあること文化庁に知ってもらう必要があると思います。  
八幡市から文化庁へ情報を積極的に発信していただきますことを要望いたします。

### 要望

最後に、コロナ対策並びにアフターコロナの対応について。  
私は、新型コロナウイルス感染症ワクチンが広がり特效薬ができれば、多分以前のような日常が戻ってくると信じております。  
アフターコロナの対応は、同じような感染症が今後起こり得るという視点に立って、今回の新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえて、準備や対処を考えることであると考えております。今回の新型コロナウイルス感染症の対応も、答弁でもありましたように、新庁舎で可能であるということですが、危機対応ができて業務が継続できる新庁舎や市政であるように、想定や準備をお願いします。要望とさせていただきます。

以上で再質問を終わります。